

## 龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ 5

## 【川原代地区】



③⑥ ヒヨクヒバ・イヌマキ

③⑦ ヒバ・ヤマモミジ

③⑧ イチョウ

## ヒヨクヒバ・イヌマキ

【ヒノキ科ヒノキ属】 【マキ科マキ属】

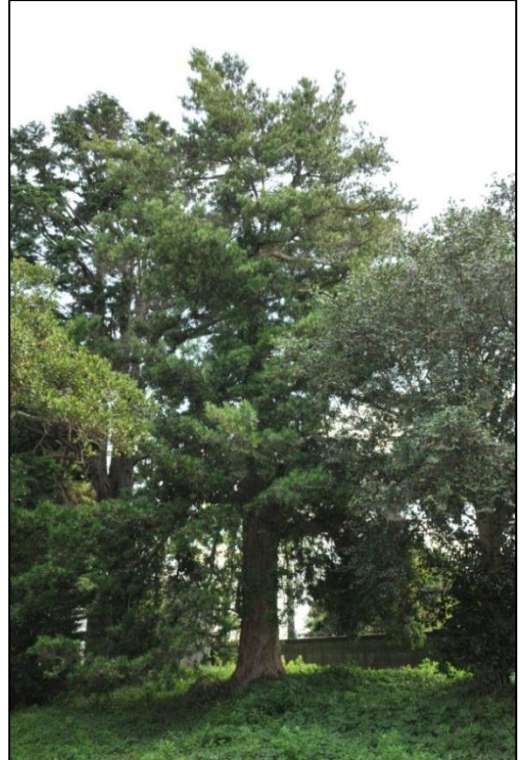
データ

## 探訪マップ【川原代地区】③⑥

(ヒヨクヒバ) 樹高/10m 幹周り/ 270cm  
 推定樹齢/ 100年  
 (イヌマキ) 樹高/20m 幹周り/ 240cm  
 推定樹齢/ 100年  
 場所/天理教相馬分教会(道仙田)



【ヒヨクヒバ】



【イヌマキ】

## ■道仙田、分教会の木々たち■

旧水戸街道の馴染道標から江戸への布川道が小貝川の土手にぶつかる辺りに砂波（すなっば）という集落があります。その集落のはずれに天正年間、450年ほど前に鹿嶋の分霊として建てられた天理教相馬分教会の樹木の濃い茂みがあります。

現在、道仙田には、へら鮎釣りのメッカとして有名な旧小貝川がありますが、明治中期に氾濫河川の小貝川の短絡工事のできたものです。

## ヒヨクヒバ

常緑高木でサワラの一変種の比翼檜葉（ヒヨクヒバ）。枝は細く長く垂れ下がっており、庭木や生垣用に用いられます。枝は細く長く垂れ下がっており、別名イトヒバともいいます。

## イヌマキ

常緑針葉高木で関東以西から沖縄まで分布しており、北限に位置するこのイヌマキは風格のある樹形をしています。分教会奥左側の道路際、木々の茂った小高い法面にすっきりと立っている姿は、りりしく感じます。





## ヒバ・ヤマモミジ

【ヒノキ科アスナロ属】 【ムクロジ科カエデ属】

データ

## 探訪マップ【川原代地区】③7

(ヒバ) 樹高/20m 幹周り/  
250cm 推定樹齢/100年  
(ヤマモミジ) 樹高/13m 幹周り/150cm  
推定樹齢/100年  
場所/ 天理教相馬分教会(道仙田)



【ヒバ】



【ヤマモミジ】

## ■道仙田、分教会の木々たち■

## ヒバ

ヒバは翌檜（あすなろ）の別称で「明日はヒノキになろう」という意味といわれています。ヒノキ科の常緑高木で材としては建築材料として珍重され、また、船材、土木材などに使用されています。

## ヤマモミジ

落葉高木。日本固有種といわれ、雌雄同株で春には一つの花序に雄花と両性花をつけ翼果を結びます。

分教会中庭左側の小高くなっているところにヤマモミジが大きく枝を広げており、長い年月を経るうちにかつての石積壁に根が覆いかぶさっている珍しい光景が見られます。



# イチヨウ

【イチヨウ科イチヨウ属】

デ  
ー  
タ

探訪マップ【川原代地区】⑳

樹高/ 13m 幹周り/ 300cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 八幡神社(川原代町)



## ■川原代、八幡神社の銀杏（いちょう）■

水戸街道（国道6号線）の小通幸谷交差点から、県道竜ヶ崎潮来線・ほたる通り（5号線）をしばらく進むと、川原代小学校があり、ここを右折すると小学校の裏手に八幡神社があります。

八幡神社は、「同じ源氏と申せども、八幡太郎はおそろしや・・・」と都で歌われた義家が、後三年の役の帰途創建したとされています。

「戦神」とされる八幡さまを頭につけられる義家ですが、前九年の役の衣川の総攻撃の時、「衣の館（たて）はほころびにけり」と下の句を読み、敗走した安部貞任が「年を経し糸の乱れのくるしさに」と上の句をつけたところその教養に感じて矢をおさめたという話からも義家の人柄がうかがえます。

八幡神社裏にあるイチヨウは、岩手県長泉寺の幹周り15mの巨樹には及びませんが、幹の太さに龍ヶ崎市の往時を偲ぶのも一興でしょう。

また、このイチヨウには乳（ちち）と呼ばれる気根が幹や枝に数多く垂れています。

